

第六回「カナダフーズフェア」は、昨年十月六日より西友ストア一百五十六店で一斉に開催され、多くの消費者より大好評を得た。

このフーズフェアは、十か月も前から商品の選定、売り出し企画……と準備を始め、現地での買いつけ、そして販売へとこぎつけたもので、カナダ政府、州政府、輸出組合、生産者、在日大使館のご協力もあって、すべて順調に運んだ。商品については、最初の頃はすぐれた食品がせっかく到着しても、日本の食品衛生法にふれて陸揚げできない場合もあったが、昨今では関係者の深いご理解のおかげで、こうした問題も解決され、ほとんど支障はなくなった。

われわれが最も重視するのは、同じカナダフーズフェアでも、去年より今年、今年よりは来年と、よりよい企画をどう打ち出すか、そしてさらに良質の商品をどう紹介するか、という点である。

さて、今回のフェアで扱ったのは、ニューヨーク・ブランドウィック州のセント・マール・ガレット湾から空輸したジャンボマグロ、光沢・身の色とも良く日本産より質的に優れた銀ざけ、ししゃも、いか、にしん、カニ缶などの海産物、畜産物（はし

## 定着したカナダフーズフェア

西友ストア取締役・仕入部長

奥山裕将

好評だったジャンボマグロ



めて生食用の馬肉を導入した）、ベーコンなどの畜産加工品、ジャムなどの加工食品、その他スバゲティ、クラッカー、キャンディー、ワイン、ハチミツなどであった。中でも、ジャンボマグロはテレビや新聞等で大きく取り上げられ、消費者からも次はいつ輸入されるかという問い合わせが殺到した。畜産物は当社扱っている商品の中では最もポリュームが大きく、今後の伸びがますます期待される。ジャムではストロベリーが良く売れた。また

るものばかりで、今後十回、二十回とこのフェアを重ねてゆくことによって、多くの、そしてより良いカナダ商品を日本の消費者に広く紹介していきたいと考えている。

最近ではブルーベリーもファッシュショナルな目として伸びが著しい。われわれ小売業者の目から見たカナダの商品はますます期待される。

われわれのこうしたフェアがさらに大きな輪となり、日加経済発展に多少なりとも貢献できれば幸いと念じている。

## B・C州の製材を日本へ

シーボード・ランバー・セールズ社長

クリーブ・D・G・ロバーツ

シーボード・ランバー・セールズ社（本社はバンクーバー）は、一九六〇年以來二十年以上にわたり、日本に製材を供給している。わが社は、この間、日本側顧客のニーズに対する理解を深めるため、日本の木材業界と緊密に協力してきた。

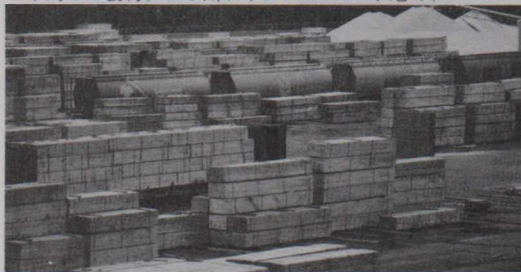
日本は国内の木材需要を補うため、昔から丸太を輸入してきたが、同時に製材の需要がますます増大していくだろうということもはつきりしていた。カナダの製材——最近には特に針葉樹合板——は経済性および建築適性にすぐれ、その主要な生産地ブリティッシュ・コロンビアは日本の理想的な製材供給地となった。

それとともに、シーボード社もさまざまなスタートから、日本向け製材供給業者の最大手へと発展した。

シーボード社の製品は、北海道から九州まで、日本全国で手に入る。大小、長短、等級、材種もさまざまで、日本の伝統的な住宅に合わせて加工することも、ツーバイフォー用材として使用することも可能である。最近日本でツーバイフォー工法の住宅建築用に針葉樹合板の利用が認められたが、これも日加双方にとつて喜ばしいことである。

シーボード社は、品質管理やすぐれた

日本向けの製材。BC州プリンスルパート港で。



輸送システム（トランク）で搬入搬出できるRORO船が、八三年初めまでに三隻就航することになった（に力を入れているなど、日本側のニーズに沿うよう努力を重ねてきた。東京には日本の木材業に詳しい、日本人ばかりの子会社を設けて、こうした努力をさらに充実させるようにしている。

私自身、日加経済人会議カナダ側委員会のメンバーとして、これまでのすべての会議に出席し、また両国実業人の相互訪問の実現に熱心に取り組んできた。木に対する日本人の愛着を考えると、シーボード社は今後とも、日加双方が相互に有益な林産品貿易を続け、かつ拡大する上で大いに貢献できるものと確信している。日本は、過去二年間、ブリティッシュ・コロンビア州にとって米国を上回る最大の海上輸出手国であった。今年の対日輸出は順調なスタートを切ったあと、第二四半期になつて若干落ち込んだ。しかし、長期的な見通しは、さわめて明るく思っている。